

愛知県立農業大学校について

誌名	畜産の研究 = Animal-husbandry
ISSN	00093874
著者名	土屋,明彦
発行元	養賢堂
巻/号	63巻1号
掲載ページ	p. 94-98
発行年月	2009年1月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



愛知県立農業大学校について

土屋明彦*

1. 沿革

—昭和の伝統を発する追進農場から「開かれた学校」を目指す平成の組織改革に至る—

愛知県立農業大学校は、農商務省愛知種馬所(明治43年)、愛知県種畜場(大正13年)を経て、昭和9年に追進農場として創設されました。現在でも正門は愛知種馬所を残す馬頭道と称する道路に面し、樹齢100年余の松並木の中に、当時の近代建築の追進館講堂(昭和10年 写真1)、追進資料室(昭和16年)が建っています。追進館といえば、朝の連続ドラマ(NHK)「純情きらら」の撮影が行われ、追進館に入ると主演の「宮崎あおい」ふんする桜子がピアノを弾く様子や、当時の追進農場で学ぶ学生の様子がセピア色に浮かんでくるようです。



写真1 追進館

以来、農業後継者の育成を目的とした追進営農大学校となり、昭和59年に農業改良普及員等の農業技術指導者の養成を目的とした農業技術大学校を加え、今日の総面積38.99haの愛知県立農業大学校となりました。平成15年には中央教育棟(写真2)が建設されました。現在、教育部農学科(岡崎キャンパス)、同研究科(長久手キャンパス)、研修部の2部2科制で構成され、「若者に夢と希望を抱かせる

学園」、「開かれた農業大学校」を目指しています。平成20年度は、多岐の社会情勢からより魅力ある学校とするため学校教育法に基づく「専修学校」となり、それにより卒業生には「専門士」の資格が与えられるとともに、4年制大学への編入が可能となりました。



写真2 中央棟

2. 本校の特徴

(1)教育目標

- *農業者としての自信と誇りの醸成
- *農業に関する知識・技術・技能の習得
- *経営管理能力の養成
- *洞察力・応用力・創造力および協調性の養成

(2)教育体制(図1)

教育部農学科4グループ8専攻(岡崎キャンパス)、研究科2専攻(長久手キャンパス)、研修部2グループから構成されています。

(3)教育部

教育部農学科では、高等学校卒業生等を入学の対象として1学年100名の定員で、2か年の全寮制による実践教育(履修時間2,400時間の56%が実習)を基本としています。一般教養、農業の基礎的科目、専門科目を履修し、実習は専攻別の少数精鋭となつ

*愛知県立農業大学校(Akihiko Tsuchiya)

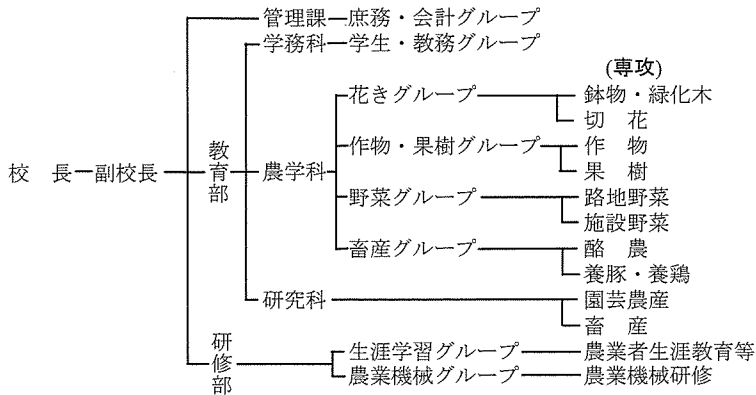


図 1

ており、県下の先進中核農家への 40 日間の派遣実習、オーストラリアへの海外研修等を行い、1 人 1 課題のプロジェクトと称する研究を必修とし、農業後継者、農業技術者としての知識、技術、技能を養います。

研究科はキャンパスを愛知県農業総合試験場に併設し、本校農学科卒業生、短期大学卒業者を対象に、試験場の研究員の指導のもとで、さらに高度な農業知識、技術を学び、地域農業の中核的な担い手、農業技術指導者を養成する機能を担っています。

(4) 研修部

岡崎キャンパスにある研修部は農業者の生涯教育研修、ニューファーマーズ研修、雇用創設研修、農業機械研修等に加え、一般県民に対して「食と農」に関する県民公開講座を開設しています。参加者は 7,768 名 (19 年度実績) に上っています。

3. 専攻別特徴

(1) 花きグループ：指導教官 6 名

* 鉢物・緑花木専攻：鉢花、観葉植物、洋ラン、緑花木・花壇苗等 20 品目以上を栽培し、土づくりから栽培管理、販売経営まで専門的な技術を習得します。現在、1 年生 7 名、2 年生 11 名。

* 切花専攻：キク、カーネーション、バラ、その他洋花を中心にガラス温室主体栽培し、年間を通じて出荷ができる。とくに渥美地域特産の電照キク栽培は高度なレベルを要求されており、その知識・技術教育を行っている。現在、1 年生 13 名、2 年生 8 名。

(2) 作物・果樹グループ：指導教官 5 名

作物専攻：大型機械を利用した水稲省力化栽培を中心に、今後の水田経営を学ぶとともに、収穫物を使って、五平餅、とうふ、みそ、うどん等の加工実習を充実させています。現在、1 年生 7 名、2 年生 6 名。

果樹専攻：ブドウ、ナシ、イチジク、モモ等の県下で生産されている果樹栽培を基礎から学び、剪定技術、栽培技術等の実践を習得します。現在、1 年生 7 名、2 年生 5 名。

(3) 野菜グループ：指導教官 6 名

露地野菜専攻：県下で代表的なキャベツ、ハクサイ、ブロッコリー等々およそ 70 品目以上の栽培をしています。都市近郊の兼業農家の経営モデルや渥美、田原地域を対象にした大規模専業農家の経営モデルを学びます。また、他方では、ハウスイチゴの栽培技術に力を入れています。人気ナンバーワンの専攻で現在、1 年生 17 名、2 年生 14 名。

施設野菜専攻：トマト、ナス、キュウリ、温室メロンの栽培技術を学びます。地床、隔離床、ロックウール耕、水耕栽培用等の温室が 10 棟並びます。特産となる温室メロンは当大学の人気ナンバーワン。8 月のお盆前の直販売では長蛇の列になり、整理券を配布するほどです。現在、1 年生 20 名、2 年生 7 名。

(4) 畜産グループ：指導教官 6 名

(うち獣医師 1 名)

畜産の特徴は見学者が大変に多いことです。年間

に2,000人を超える見学者があり、しばしば実習作業の妨げになるほどです。見学者は小学生、幼稚園児、保育園児がほとんどですが、身体障害者、俳句クラブのご老人にまで及んでいます。柵ごしに餌をやったり、写生をしたりして楽しんでいます。子豚や子牛に触れさせることもあり、大変に評判が良いようです。残念ながら鶏舎には伝染病の関係で立ち入りできません。在校生も時々牛を見にきます。牛に「癒される」との声もあり、思わぬ所で教材を提供しているようです。

畜産専攻については以下、実習作業、学生の様子等記載します。専攻は酪農専攻と養豚・養鶏専攻の2専攻となっていますが、実際は家畜別になっており、1年、2年生個々の専攻学生が在籍しています。当初、入学した1年生は4月から7月までは全家畜の実習作業を行います。畜産全体を理解してもらうことと、当番作業に備えるためです。2年生は当番作業を1年生に一生懸命に教えます。このことは2年生が作業をより理解する過程として重要な機会となっています。また、バックホー、ホイールローダー等作業車の取り扱いが必要となるため農耕用特殊自動車免許、牽引免許等を早期に取得(合格率は100%)します。また、在学中に人工授精師免許の取得を目指します。今年度の合格率は90%に達しています。

畜産専攻を選んだ学生の動機は、畜産の担い手の学生は別として「動物好きだから」がほとんどです。学生達は動物なら家畜でなくても「何でも好き」の集まりでもあります。それら学生達の希望職種としては、圧倒的に動物園の飼育係、観光牧場、農業高校等の牧場補助員、盲導犬のトレーナー等が多く、畜産関係への就職希望が少ないのが現状です。農業大学校の目的からは異とするところですが、畜産物の生産現場を知り、畜産を学んだことが将来の「何かに」つながればと期待しています。ですから入学して直ぐの講義では、野生動物、産業動物、伴侶動物、展示動物、実験動物等に対するコンセプトを解説し、産業動物についての理解を深めることから入ります。畜産物の生産現場の衛生は「食の安心、安全」に対する重要な内容の講義となります。飼育ばかりではいけないとの考えを学習しています。現在はスポット的に行っている「動物の行動学」「動物福祉」の講義を単位科目とすることも模索していま

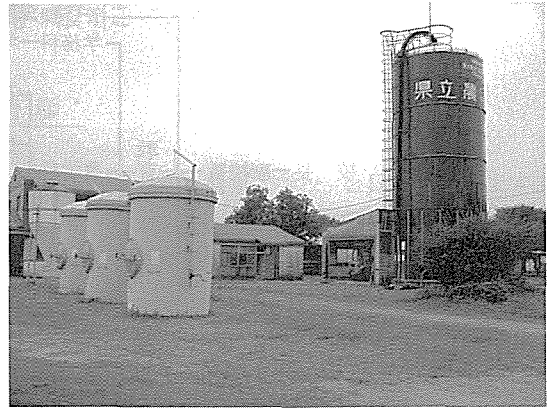


写真3 気密サイロ

す。

午前中の実習作業はカリキュラム上、1年か2年、もしくは両方が必ず当たるようにカリキュラムが組まれています。また、週1日は座学がない日があり、切れ目のない実習作業ができるように配慮がなされています。また、2年生にはプロジェクトと称する卒業研究論文が課せられており、研究の目的から計画、取りまとめ、発表の過程で自主的な学習手法を養います。

酪農専攻:施設はフリーストール牛舎(ベッド数50)、ミルクパーラー(3連のダブル)が設置され、糞尿が分離できるスクレーパーが導入されています。育成牛舎、肥育牛舎、多目的牛舎、サイロ(96m²)×2棟、牛糞天日乾燥施設1棟、堆肥舎、飼料敷料庫、ワラ庫、管理棟からなり、飼料作物575aを有する本格的な牧場です。そして、我が農業大学校の歴史的シンボルは追進館ならば、農場のシンボルは使わなくなった100トンの気密サイロ(写真3)です。農場入り口にある酪農施設の中心に重く立錐しているように見えます。昨年、卒業生が牛とサイロを背景に結婚写真とビデオ撮影を行いました。花嫁の白いウエディングがまぶしく輝いていました。卒業生はこの牧場的な光景に相当な思い入れがあるようです。

酪農専攻生は、現在1年生8名、2年生2名が在籍しています。ここでは、子牛の出産から、育成、搾乳および肥育と生育段階別に学ぶことができ、学生は当番制で、牛を365日、24時間

飼育する経験をします。一日の酪農作業は授業が開始される 20 分前、8 時 30 分から始まりです。各牛舎の見回り、ミルキングパーラーの機械準備(パイプライン消毒)等を行い、8 時 50 分から管理棟の教室に集まって授業開始になります。前日の当番および指導教官からの連絡事項、その他ミーティングを行い、学生各自の希望により、今日はどの作業をするのか決めます。不思議なことに、学生は同じ作業に片寄ることなく搾乳班、飼料班、育成班に分けられて行きます。搾乳班は搾乳、パーラー室の洗浄をこなし、飼料班はフィードカーにて調整した配合飼料を配ります。育成班は子牛の哺乳、育成牛、肥育牛の餌やりです。乾乳牛、分娩後の初乳牛、乳房炎治療牛等は飼料班と育成班が担当します。ほぼ、1 時間 30 分(1 限目)で終了します。休憩後、各牛舎の除糞、種付け、飼料作などなど、日々、メニューは次から次へ続きます。

種付けは人工授精師免許取得者を主として積極的に行わせます。また、グループを組み、牛を割り当て人工授精を施して卒業までに分娩させるように目標をもたせています。各グループで競うようになり、牛の健康状態や発情をよく観察する効果をもたらしています。

畜産専攻学生の特徴は、実習作業が定められていない時や座学がない、いわば自由時間時に専攻の管理室に集まってくることです。集まってくれば、時にはおのずから家畜の管理をすることになりますが、あまり苦にならないようです。分娩、牛の出荷は酪農専攻全員で行います。また、分娩予定日は専攻管理室に泊り込むことが年に数日あります。分娩時に遭遇した学生はその子牛の名前を命名しているようです。

夕方の作業は当番 5 名によって 18 時 30 分から開始します。当番は畜産専攻生(酪農、養鶏・養豚)全員でのローテーションになっています。午前作業と同様の手順で実施し、指導教官は立ち会いません。学生がすべて行い、終了は 20 時 30 分頃です。男子学生は 22 時から、牛の餌押し作業、畜産施設の見回りをします。

休日、夏休み、冬休み、春休みは、当番 5 名での作業となります。大変忙しいスケジュールで午前中は牛の作業、午後 14 時から養豚と養鶏

作業、牛の夕方作業と続き、「あつ」という間に 1 日が過ぎます。

養豚専攻：養豚施設は種豚、分娩房、肥育舎の 2 棟と汚水処理施設、ふん発酵施設、管理棟からなり、現在、1 年生 1 名、2 年生 2 名が在籍しています。種豚は愛知県ブランドの「アイリス」系の LW20 頭、デュロック雄豚 2 頭、出荷豚は年間約 400 頭です。学生は種付けから分娩、育成、肥育、出荷、汚水処理、堆肥処理等を実践に即した作業とともに体重測定、人工授精等を学びます。

養鶏専攻：養鶏施設は育雛舎、開放鶏舎、ウインドウレス鶏舎、ハウス平飼い鶏舎、乾燥ハウス、管理棟からなり、名古屋種を主に白色レグホン、ブラウンの系の約 3,000 羽が飼育されており、1 年生 2 名、2 年生 2 名が在籍しています。特徴として、名古屋種「名古屋コーチン」の飼育を学ぶことができます。ゲージ飼い、平飼いに加え、野菜くずをブレンドした飼料を与えることで、全くの臭みのない自然卵を生産しています。

大規模化が進む養鶏業界を尻目に、名古屋種の生産した付加価値卵は直売、規格外卵は加工してプリン、パウンドケーキとして、廃鶏は鶏肉として販売して極小規模の養鶏経営を模索しています。

学内行事の収穫祭では、この卵と牛乳を使った、アイスクリームとパウンドケーキが大好評です。

(5)農産物販売(写真 4)：毎週水曜日に伝統ある追進館講堂で販売されます。安全、安心の季節折り折りの農産物を求めて地元県民が列をなしています。1 度購入したら必ずリピーターになるようでもいつも同じ面々が並びます。農産物は各専攻の持ち寄り販売し、地元では農大ブランドとして高い評価を得ております。しかし、一方では学生は消費者の生の声を聞き現実の厳しさも受けているようですが、大変勉強になっているようです。

目玉産物を紹介しましょう。野菜は品揃えに特徴があります。その数 70 品目が年中巡ります。とくに、ゆめのか、とちおとめ、紅ほっぺ、章姫等のイチゴは春先からのヒット商品で大変な評判です。6 月、8 月のメロンの(L)サイズは整理券をも手に入



写真4 直売風景

らないほど幻に近い品目で、贈答用にも用いられています。果樹は5月下旬から梅、びわ、6月下旬も、7月中旬ブドウ、なし、ハウスみかん、8月にはイチジク、9月には柿と続きます。巨峰ブドウの品質は集荷場で選別した保証付きの特級品です。花グループのお薦めは「知る人ぞ知る」と言われる極めて長持ちするとの評判のシクラメンです。農大祭りでは1番の販売実績を上げています。9月から10月はお米です。5キロパックが飛ぶように売れていきます。しかし、年間を通してのナンバーワンは名古屋コーチン卵です。ワンパック10個で300円は、飼料の高騰で維持が難しくなりつつありますが、農大の直売＝コーチン卵と称されるほどの人気があります。

農大ブランドの販売価格は決して安くはなく市場とほぼ同程度ですが、耕作者の学生が直接販売し、そのうえ、「安心、安全の品質保証付き」の新鮮農産物ゆえに、地元の皆さんに支持されていると思われます。また、これら農産物の陰に隠れた人気商品があります。畜糞(牛、豚、鶏)の完熟堆肥です。ほとんどは当校で施用しますが、第2水曜日のみ一般販売します。袋に自分で詰め、20kgで50円と格安で、時には、本業の農家も軽トラック一杯2,000円で購入していきます。

その他、農大祭には多数の地元の皆さんが農産物や加工品を求めてきます。

来校の機会がありましたら水曜日午後3時を外さないようお願い申し上げます。